

【ICT街づくりの成果事例】

クラウドを活用した森林資源の情報共有【岡山県真庭市】

※総務省からの支援により、ICT街づくり推進事業（H25年度）を実施。

○取組前の状況

- ・面積の8割を森林が占める。
- ・木材産業が発展しており、木質バイオマス発電所が平成27年度より稼働。燃料等森林資源の安定供給が課題
- ・過去に、大型台風の襲来による大規模な風倒木被害が発生。資源保全・土砂災害防止の視点から対策が必要

○取組の概要

- ・地番現況図を共通IDとした森林林業クラウドを導入し、行政機関と資源生産事業者との情報共有を促進
- ・ロボットセンサー（UAV）を導入、樹木の位置や種類等を上空から柔軟に把握する体制を構築
- ・上記を災害時に活用し、風倒木や土砂災害発生箇所を迅速に把握し、関係者にて共有

取組の成果

- ・森林組合が土地所有者情報を把握する際、従来は1区画に2人がかりで終日（8時間程度）費やしていたが、森林林業クラウドを用いた地番現況図の閲覧によって、簡易な画面上の操作（1分程度）で作業を完了させることが可能となった。
- ・森林資源の分布（樹木の種類別面積、生育状況等）を把握する際、従来は1区画に2人がかりで終日（8時間程度）費やしていたが、ロボットセンサーを用いた空中写真等、森林林業クラウドに蓄積された情報の活用により、簡易な画面上の操作（1分程度）で作業を完了させることが可能となった。



森林林業クラウド

ロボットセンサー



森林資源量の把握・関係者間の共有



森林資源の有効活用
木質バイオマス発電等への
燃料安定供給

【参考】ICT街づくり推進事業 成果報告資料 http://www.soumu.go.jp/main_content/000290374.pdf